

平成 30 年度 第 2 回香南市産業振興計画推進分野別部会 報告

- 1 農業部会 1 ～ 2 ページ
- 2 林業部会 3 ～ 5 ページ
- 3 水産業部会 6 ～ 7 ページ
- 4 商業部会 8 ～ 10 ページ
- 5 工業部会 11 ～ 12 ページ
- 6 観光部会 13 ～ 14 ページ
- 7 サイクリング専門委員会 15 ～ 18 ページ

部会開催日:H30. 10.25 (木)

平成 30 年度 香南市産業振興計画 農業部会報告書

(H30 年度上半期の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎竹内 淳	JA 土佐香美園芸部	出
2	○長崎 篤史	香南市認定農業者連絡協議会	出
3	石丸 典男	JA 土佐香美果樹部	出
4	百田 彰和	香南市有害鳥獣被害対策協議会	欠
5	近藤 亨	JA 土佐香美営農経営指導課	代出
6	中村 和彦	高知県農業共済組合香美支所	出
7	吉本 良太	高知県中央東農業振興センター農業改良普及課	出
8	山本 茂夫	香南市農業公社	欠
9	山崎 義道	高知県計画振興課	代出

	氏名	所属	出欠
1	村山 敦	農林課	出
2	猪原 一幸	農林課	欠
3	小松 大洋	農林課	出
4	伊野 広高	農林課	出
5	山本 直史	農林課	欠
6	近森 伸也	商工水産課	欠

○ 取組に対する評価 【総評】

目標値である「新規就農者数」は、毎年 10 月末から 11 月にかけて高知県中央東農業振興センターより公表される「前年度の新規就農者数」であり、H30 年度の目標値である「新規就農者数 12 名」の目標に対し、新規就農者は 9 人となる。

H30 年度の就農相談は 10 件あったが、就農を安易に考えている方や、今後の予定を立てられていない方が多く、就農するまでには至らなかった。

今後も就農に向けたイベントに関係機関と参加し、周知をしていくよう努め、H31 年度の目標値である 15 人に繋げられるように各取組を進めていく。

【主な意見】

① 担い手の育成について（担い手育センター研修支援事業の評価が低い原因はなにか。）

◆ 就農相談者は、親元就農の方と初心者が合わせて 10 人いたが、親元就農で補助金をもらうためには必ず担い手育成センターで研修を受けなければならない。初心者についても、まずは担い手育成センターで研修を受けるよう促している。農業を始めるという決心が弱いのか、1 度の相談だけで就農には至らないケースが多い。また、過去には泊まり込みでの長期研修のため、家族を持っている者は途中でやめてしまうケースもある。

② 有害鳥獣被害対策について

- ◆ 12月になるとカラスの被害が大きいですが、駆除数が少ない。JA 果樹部では、1人2万円の弾代助成を出しているが、結果につながっているか不透明である。
- ◆ 今後は鳥獣被害対策協議会で計り、被害対策を強化していく。

○ 今後の取組と平成 31 年度への方向性について

新規就農者を増やすため、イベントに参加して周知に手を尽くしているが、なかなか数字は伸びない。

農業に関心を持った人がいる等、互いに情報があれば教えあい、就農を勧めていきたい。また、就農希望者については、就農に必要な自己資金の話の踏まえ、計画を立てていく。

【主な意見】

① 環境制御技術導入普及事業について

- ◆ 事業が終了すると聞いたが、今後はどのようにしていくのか。多くの部会が導入を前提に目標をたてているので、継続をしてほしい。
- ◆ 産地パワーアップ事業の負担を軽減する目的で作られたものであるため、その事業がなくなるとなれば環境制御技術導入普及事業は継続するものと考えられる。また、県も農業振興を重点的に進めているので、想像ではあるがこのまま終了にはならないと考えられる。

② 実践型研修ハウスの建設について

- ◆ 現在建設を予定している「実践型研修ハウス」は、材料の高騰が予想され、材料不足になると言われているが、年度内に建設されるのか。
- ◆ 現在は予算的に問題が無いと考えられるが、材料の値動きについては市として判断がつかないところがあるため、材料不足等になると年度内に建設が終了できないという懸念はしている。
- ◆ 土地は購入から借地に変更となったが、地権者との交渉は進んでおり利用権も締結できている。今は入札に向け、調整を進めている。

③ 香南市農業活性化協議会の法人化について

- ◆ 山北みかんの下級品について、協議会を法人化して東北方面への販売を考えている。
- ◆ 天候の悪化などで下級品となったみかんは、香南市内の市場で6月以降に2,000袋から4,000袋に増加している。
- ◆ 単価の暴落を防止することも踏まえ、市場を分け、出荷量を減らして価格の安定を図る。
- ◆ 会社として給料も発生するという点で、利用する生産者、人材がどれだけ出てくるかという点は気になる。これから耕作放棄地も増えていく中で、法人の方で放棄地を活用していくというのも可能かと思うが、これに限らず各方面で協力者をどれだけ募っていただけるかが課題となるのではないか。

平成 30 年度 香南市産業振興計画 林業部会報告書

(H30 年度上半期の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	○公文 敬介 (西村 忠浩氏の 代理出席)	中央東林業事務所 振興課	出
2	◎三谷 幸寛 (新)	香美森林組合	出
3	清藤 好弘	香美森林組合(旧夜須町)	出
4	別役 瑞久	香美森林組合(旧香我美町)	出
5	恒石 健一	林道愛護員(旧夜須町)	出
6	小松 光廣	林道愛護員(旧香我美町)	出
7	久保 肇	林業者	欠
8	井上 美穂 (新)	高知県森と緑の会	出
9	山崎 義道	地域支援企画員(総括)	欠

	氏名	所属	出欠
1	村山 敦	農林課	出
2	猪原 一幸	農林課	出
3	小松 大洋	農林課	出
4	平井 彰洋	農林課	出
5	徳久 歩未	農林課	出
6	児玉 亮太	農林課	出

○ 取組に対する評価 【総評】

7月豪雨により、県道・林道・作業道などに被害が出たため、緊急間伐総合支援事業や森林整備地域活動支援事業が当初の計画通り進められなかった。来年度の事業の実施に向けて、関係機関と連携を図り、県道・林道・作業道を復旧することが必要である。

森林境界の明確化に関しては、現在の交付金の単価が低く、赤字が発生しているため、森林環境税を事業費に充てるなどの対応が必要である。

【主な意見】

① 緊急間伐総合支援事業の上半期実績について

- ◆ 保育・搬出間伐、作業道整備については7月の豪雨で県道が崩壊し、トラックが入れなくなった影響で、実績の数値となった。7月までに間伐していた木については、小型トラックで下まで運び、大型トラックに積み替えて運び出したが、それ以降については、事業継続の見通しが立っていない。
- ◆ 県道の復旧状況を考慮して、来年度以降の計画も考え直さなければいけない。

② 森林整備地域活動支援事業の上半期実績について

- ◆ 7月豪雨により沢谷の作業道に入れなくなったため、当初予定していた沢谷での境界明確化ができなくなった。そのため、区域を香我美町撫川に変更して実施する予定である。
- ◆ 境界明確化の補助金(森林整備地域活動支援交付金)の単価が10年ほど変わっていない。しかし、人件費は上がってきているため赤字がでるため実施が難しくなっている。
- ◆ 境界明確化は間伐や作業道整備などの全ての作業の基になるものであるため、できる限り続けていきたい。
- ◆ 以前に林野庁が香美森林組合に視察に訪れており、現状を直接伝えた。全国でも同じ状況であり、制度の改善の必要性は林野庁も感じているとのこと。
- ◆ 条件整備(作業道の改良)については、境界明確化とセットの事業であるため、実施箇所の変更に伴い、中止となった。

③ 森林整備推進事業(高性能林業機械導入)の上半期実績について

- ◆ 8t ベース・グラップル付きトラック1台を導入予定であったが、農林水産省の「プロジェクト交付金」の要綱が今年度より改正された影響で交付金が下りず、導入できなくなった。別の補助事業を活用して来年度以降に導入を検討しているが、他の機械の導入と優先順位を比較して決めなければならず、導入時期は未定である。
- ◆ プロセッサについては、現在申請準備中であり、導入は3月頃を予定。

○ 今後の取組と平成31年度への方向性について

来年度の香美森林組合の事業計画を立てるために、県道(東川～奥西川間)の復旧時期の情報が必要である。そのため、関係機関と連絡・調整を取り、早く復旧の時期を把握すると同時に、工事の優先順位を早めて貰うことが必要である。

(※ 県に問い合わせたところ10月末現在においては未定。)

森林境界明確化については、所在が分からない森林所有者に対し、税務の情報を内部利用して、市から所有者へ文書を送る。

(※ 香美市に事例を問い合わせた結果、10月末現在、実施に向け課内で調整中。)

平成31年度より、森と緑の会の事業を取り入れることを検討中であり、第3回林業部会において提案予定している。

【主な意見】

- ① 災害等で崩壊した県道の復旧について香美森林組合の来年度事業計画を作成するため、復旧計画が知りたい。
 - ◆ 災害の補助金で直すか、県が単独で直すかによって、時間の差がある。
 - ◆ 災害の補助金となると、事業費が大きい箇所については遅れる、また、優先順位によって復旧までの時間に差がある。

- ◆ はっきりとした期間は答えられないが、通る人が多い等、早急に復旧が必要な場合は検討する。

② 森林境界明確化について

(1)所有者の特定方法について

- ◆ 第1回林業部会を開催後、香美森林組合と打ち合わせを行い、所有者の特定については、市が地域の人に聞き取り等を行うなど、協力を実施することになった。ただし、聞き取りの際、3代、4代前の人の特定は難しい。
- ◆ 香美市では、市役所内で戸籍や税務課の情報を内部利用して、市から所有者に対して、香美森林組合の案内文書を同封して送っている。香南市でも、同じ方法ができるように検討する。

(2)広報について

- ◆ 一般の人たちに森林境界明確化という事業があることを知って貰うことが大切である。

(3)森林環境税の活用について

- ◆ 平成31年度より、森林環境税が導入されるが、香美森林組合としては、それを作業道の維持管理や森林境界明確化に使えるように市にお願いしたい。

③ 木質バイオマスボイラーについて

- ◆ そろそろ耐用年数があるが、その後はどうするのか。市としては個人の所有にしたい。
- ◆ 現在、財産的にはJAの所有であり、ペレットの供給や灰の処理はJAを通して行っている。耐用年数が過ぎて、仮に個人の所有になった時に、それらのサポート体制を継続できるかが問題である。

④ 緑の募金事業について

- ◆ 地元の学校支援のために、地元の企業に寄付を募り、それを使って赤岡小学校に木製の掲示板を立てた。この事業には子どもたちに少しでも木に親しんで貰い、将来の木材利用や木への関心に繋がって欲しいという願いが込められている。
- ◆ その他にも、子どもの森林環境学習や学校の設備の購入など、多様に使える事業となっている。
- ◆ 来年度の産業振興計画の事業に森と緑の会に関わる事業を取り入れることも検討している。

⑤ 木材利用について

- ◆ 高知県には、木がたくさんあるのでスーパーのレジ袋を紙袋にしたらいのではないかと思う。
- ◆ 木材利用を促進するため、製紙工場などの企業誘致はできないか。

部会開催日:H30. 10. 25 (木)

平成 30 年度 香南市産業振興計画 水産業部会報告書

(H30 年度上半期の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎山下 太造	高知県漁業協同組合赤岡支所長	出
2	○仙頭 美香	高知県漁業協同組合手結支所長	出
3	本田 和仁	赤岡バッチ船主会会長	欠
4	北村 政志	吉川バッチ船主会代表者	出
5	浜口 信義	手結地区漁業者	出
6	中山 勝道	住吉地区漁業者	出
7	野村 操	ジャコ加工業者	出
8	加地 正人	シイラ加工業者	欠
9	飯田 新	高知県水産振興部中央漁業指導 所長	出
10	齋藤 弓子	高知県計画推進課	出

	氏名	所属	出欠
1	猪原 加江	商工水産課	出
2	近森 紳也	商工水産課	出
3	澤田 卓	商工水産課	出
4	川西 貴祥	商工水産課	出

○ 取組に対する評価 【総評】

平成 30 年度上半期の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる沿岸漁業総生産量 1,200 トンに対して 9 月末実績値が 523 トン(43.6%)、沿岸漁業総漁獲高 238,000 千円(H27～H29 平均値)に対し 138,523 千円(58.2%)であることから、全体の評価をCと判定した。

しかし、9 月末時点で、生産量は前年比 128.5%と増加、また漁獲高も前年比 148.4%となっている。主な要因は、シイラが年度当初は低調であったが、8 月・9 月が好漁で過去 5 年でも月当たり最高水揚げとなっている。イワシシラスも生産量は H29 年度より少ないが、品質の良さと他県の生産量が少なかったことから、漁獲高は前年比 160.8%と上昇している。

今後の生産量は水産業特有の天候等による好不漁の影響もあり、不透明なのが現状であるが、県漁協赤岡支所で荷揚施設の増設・浮棧橋の設置、県漁協手結支所で製氷機更新を行っており、間接的ではあるが、生産性の向上・維持により漁業活動の円滑化を図り、生産量確保に努めていく。

新規漁業就業者の確保についても、相談窓口が一元化され、H30.10.15 より県漁業振興課に相談窓口が設置された。今後、市も構成員として漁業就業希望者を総合的に支援する新たな組織の検討・協議への参加を予定しており、新規漁業就業者を確保し生産量確保に向けて努めていく。

【主な意見】

①新規漁業就業者の確保

- ◆ 短期研修を受け入れたが、その後どうなったかわからない。
- ◆ 県が H30.10.15 より高知県漁業就業支援センターを設置している。
今後は連携を密に取っていく必要がある。

②水産加工流通販売の推進

- ◆ かりじゃこの学校給食について、どのような選別機、衛生管理基準等の決まりがあって採用しているかが不明である。その部分を明確にする必要がある。加工業者は条件等により今後設備投資するか、採算があうか考える。
- ◆ 基準となる明確な仕様が必要である。

○ 今後の取組と平成 31年度への方向性について

シラス漁における漁業者の所得向上を目指すためには、鮮度保持等様々な面から視察し、漁業者の意識改革を図る必要がある。そのために、今後は先進地視察も含め、候補地を検討していく。

また、海面漁業において部会で意見をいただき施策に繋げているが、内水面漁業については議論されていないのが現状である。今後は内水面漁業関係者を部会の委員として参加していただくことよう依頼していく。

【主な意見】

①漁場の保全

- ◆ 7月豪雨により海へ大量の木などが流れ出た。赤岡・吉川の漁業者は今でも網に流木がかかり大変被害を受けている。今までの掃海事業では自分の網で実施しているため出水時に掃海することはできないが、こういうときにこそ掃海を行う必要がある。そのため掃海用の網を用意する必要がある。

②漁業者の所得向上

- ◆ シラス漁における漁業者の所得向上を目指すためには、鮮度保持等様々な面から視察し、漁業者の意識改革を図る必要がある。

③水産加工流通販売の推進

- ◆ 販売先を増やすために、手結加工場に真空包装機を導入したらどうか。

平成 30 年度 香南市産業振興計画 商業部会報告書

(H30 年度上半期の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎ 福井 律	お菓子と雑貨おひさん	出
2	田中 たい子	スタジオハンズ	出
3	近藤 洋好	レストラン かとり	出
4	門田 直也	有限会社マルオカ	出
5	○ 石丸 法正	香南市商工会	出
6	橋本 香織	香南市観光協会	出
7	安藤 潮	高知県計画推進課	出

	氏名	所属	出欠
1	猪原 加江	商工水産課	出
2	小林 辰徳	商工水産課	出
3	谷口 奈菜子	商工水産課	出

○ 取組に対する評価 【総評】

以前からの課題である「空き店舗対策」に関しては商工会ホームページ等で紹介が始まり、空き店舗補助金の利用者が現れるなど一定の進捗がみられる。

一方で、空き店舗登録数が少ない等の課題や、空き店舗対策事業補助金の利用者が伸びない等の課題がある。

香南市緊急融資保証料補給金事業に関しては、利用が多いことで評価を上げるのか、下げるのか、評価基準を今後検討していく必要がある。

【主な意見】

① バルチケットの販売数はどうなっているのか。

◆ 市内店舗、観光協会、商工会を含めた 19 店舗で 10/4 から販売開始している。集計は商工会のみしか取れていないが、現在 56 枚の販売実績である(10/31 現在)。

◆ チケットは待っていても売れないので、積極的にチケットを売りに行き、ポスターやチラシを置く等の活動を広げ、500 セットの販売を目指す方向にある。

② 香南市緊急融資保証料補給金事業の評価のうち、融資利用数はどうなっているか。

◆ 平成 30 年度 9 月末現在は、香南市緊急融資保証料と日本政策金融公庫ともに利用実績がない。例年、年末に向けて相談が増える傾向にあるが、全体的に融資需要が減っているように感じられる。

※ 香南市緊急融資保証料 支払い実績：平成 29 年 2 月以降、新規申請者なし。

・ 緊急融資保証 実績 (参考件数)

年 度	平成 26 年度		平成 27 年度			平成 28 年度
	4-8月	9-1月	2-3月	4-8月	9-1月	
期 間	4-8月	9-1月	2-3月	4-8月	9-1月	2-3月
件 数	2	2	2	2	2	2
件数内訳	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:1件
備 考	2件 補給開始					

年 度	平成 28 年度		平成 29 年度			平成 30 年度
	4-8月	9-1月	2-3月	4-8月	9-1月	
期 間	4-8月	9-1月	2-3月	4-8月	9-1月	2-3月
件 数	2	2	2	3	5	5
件数内訳	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:1件	7年:1件 10年:2件	7年:2件 10年:3件	7年:2件 10年:3件
備 考				1件 補給開始	2件 補給開始	

年 度	平成 30 年度
期 間	4-8月
件 数	5
件数内訳	7年:2件 10年:3件
備 考	

○ 今後の取組と平成 31 年度への方向性について

商店街の現状や要望の把握、平成 29 年から取り組んでいる「空き店舗」や「事業承継」等の課題に対し、事業者の声を聞き取るため、市内一部の商店街(中心商店街であるのいち駅周辺)で市が、聞き取りアンケートを行う意向を提案。

このアンケート結果を今後のイベント開催や消費税増税、空き店舗・事業承継事業などの事業展開に活用する。

商店同士で横のつながりを持ち、情報交流および商店街をけん引する新たなプレイヤーを育てるための場として、「まちゼミの開催」を提案。

平成 31 年 10 月を予定している消費税増税に遅延なく対応できるよう、随時商工会と連携を取り、情報発信とサポートに取り組む必要がある。

【主な意見】

- ◆ バルのチケットは待っていても売れない。こちらから売りに行くという態勢が必要。
- ◆ 緊急融資保証は最後のセーフティネット。実績が少なければ、事業が順調でよかったととれるし、実績が多ければ、困窮しているたくさんの事業者の役に立てたととれる。評価方法については今後検討が必要。
- ◆ 全体で融資の需要度が減っているように感じる。
- ◆ まちゼミを通して事業者同士が顔を合わせ、情報交流をする機会、新しい人に参加してもらえらる取り組みになればいい。
- ◆ 全国商店街振センターが行う「まちゼミ研修事業」の窓口は商工会となる。その場合、商工会としては他の事業との兼ね合いもあることから、5 月の総会でしっかりと検討する必要がある。
- ◆ まちゼミは様々な業種の商店が参加でき、お店のことを知ってもらえる機会になる。お店とお客が親しくなるチャンスとなりえる。
- ◆ まちゼミ開催場所や期間を制限してしまうと、意欲を削いでしまうかもしれない。
- ◆ 一部の商店街(のいち駅周辺)を回りアンケートを取ることで、商店街の現状とまちゼミ開催に向け商店の理解を得る仕組みとしたい。また、空き店舗情報や事業承継なども確認したい。
- ◆ まちゼミ開催には様々な団体や人物との協力が必要。商業部会や観光協会、商工会とも情報共有しつつ、じっくり話を練る必要がある。
- ◆ 軽減税率の申告には準備が必要。電子決済などの施策に関しては、まだ国側で詳細が決まっていない状況であり、今後変化する可能性があるため、事業の総量や内容も予測がつかない。

部会開催日:H30. 10. 25 (木)

平成 30 年度 第 2 回香南市産業振興計画 工業部会報告書

(H30 年度上半期の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎黒原 正仁	YAMAKIN株式会社 高知管理部課長	出
2	○澤田 保男	香南市商工会 工業部会長	欠
3	野島 和男	株式会社暁産業 代表取締役	出
4	川久保 武志	カワクボFACTORY株式会社 代表取締役社長	欠
5	安達 明史	四国職業能力開発大学付属 高知職業能力開発短期大学校 能力開発部長	出
6	小松 裕明	高知県産業振興センター 経営支援部経営支援課 部長	出
7	岩崎 孝一郎	香南市商工会 経営指導員	出
8	安藤 潮	高知県計画推進課 地域支援企画員	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 靖生	商工水産課	出
2	萩野 大輔	商工水産課	出
3	小林 辰徳	商工水産課	出

○ 取組に対する評価 【総評】

目標値(製造品出荷額等)500 億円に対し、平成 29 年の実績値は未だ公表されていないことから、平成28年中の製造品出荷額 371 億円を実績値とし、取組評価は B とした。

(※平成 29 年中の製造品出荷額等の数値は平成 31 年 2 月頃に工業統計より公表予定)

工業分野の戦略の柱となる「ものづくり基盤整備」については香南工業団地の完売、ルネサス高知工場が譲渡決定するなど、目標が達成されつつある。今後は立地企業の雇用支援や川谷刈谷工場用地への分譲に努めるとともに、新たな取組として IT 企業の誘致を行い、特に若い世代にニーズの高い事務職種の雇用を確保するため、補助制度を制定し、空き店舗を有効活用した商店街の活性化や、移住・UIJ ターンの促進にも繋げていく。

また、「ものづくり」については、目標値に達していない取組が多いが、交流会、ものづくり会については、下半期で開催を予定している。

支援事業については、新たな取組である中小企業者の生産性向上支援事業により、設備投資の負担軽減を行うことで製造品出荷額増を図ることとした。

その他の支援事業については、利用実績が少ないなど課題も多く、引き続き企業訪問等で事業紹介をしていくとともに、今後事業の見直しや廃止も検討する。

【主な意見】

① 企業立地優遇制度の制定について

- ◆ 現行の企業立地優遇制度が弱いと感じており、ものづくりの基盤整備において、雇用の促進、生産性の向上に繋がる製造業向けの新たな企業立地促進条例の制定を検討したい。
また、新たに予定している情報通信業やサービス業等を対象業種とした企業立地優遇制度については、新規雇用者の地元雇用など、一定の要件を満たした場合において、通信回線の使用や賃料、施設改修に係る費用、地元雇用に対する雇用奨励金について補助金を交付するように考えている。
- ◆ 新規事業となる企業立地優遇制度の策定については、IT 企業関係に特化した補助金を新設する等、今後の企業誘致の支援施策として非常に期待できる取り組みになると思う。
- ◆ ベンチャー系の企業は希望として点在型ではなく、ベンチャー企業同士がお互いの得意分野を活かした集団型の立地を希望するケースが多いように思う。シェアオフィスなど、集約型も検討してはどうか。

○今後の取組と平成 31年度への方向性について

- ◆ 川谷刈谷工場用地への企業誘致を進めていくとともに、新たな工業団地の整備に向けて工場用地に必要な適地調査を行う。
- ◆ 空き店舗を活用した IT 企業の誘致を行うために、商店街を中心に空き物件やシェアオフィスとなる物件の調査を行い、首都圏 IT 企業に対して物件提供や企業立地優遇制度の案内を行っていく。
- ◆ 未来人材奨学金支援事業について対象業種の拡充と制度の見直しを行う。

【主な意見】

- ◆ 空き店舗を活用したベンチャー企業等の誘致については、商店街などを細かく調査し、企業のニーズに応えられるような物件台帳の作成を。
- ◆ 新たな雇用確保の施策として以前参加した情報関係の会議の中で youtube 等を使った会社案内が有効な手段として紹介されていた。今の学生はネット環境を利用して情報を得る事が多いと思う。現在は企業の魅力をうまく伝えれていないように感じるので、経費をかけずに情報をうまく発信することで、学生との接点に繋がる取り組みも一つの例として参考にいただければ。

部会開催日:H30. 10. 23 (火)

平成 30 年度 第2回香南市産業振興計画 観光部会報告書

(H30 年度上半期の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎ 岡林 順子	創造広場「アクトランド」	出
2	○ 村上 由利香	香南市観光協会	出
3	吉村 和久	高知県のいち動物公園協会	出
4	長山 哲雄	高知工科大学	出
5	大石 祥子	香南市商工会	出
6	塩井 政利	香南市歌舞伎でまちおこし実行委員会	出
7	齊藤 弓子	高知県計画推進課	出
8	中ノ内 友晶	土佐くろしお鉄道株式会社	出
9	坂本 辰也 (新)	リゾートホテル 海辺の果樹園	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 靖生	商工水産課	出
2	猪原 加江	商工水産課	出
3	小林 辰徳	商工水産課	出
4	山下 剛	商工水産課	出

○ 取組に対する評価 【総評】

平成 30 年度上半期の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる観光施設入込客数 120 万人以上に対し、実績値が 80.9 万人であったことから、全体の評価を B とした。

各戦略の柱の取組目標は、概ね計画どおり達成しており、昨年同時期の観光施設入込客数と比較すると約 99.1%と昨年と同程度で推移している。

①核となる観光拠点の形成

◆ この地域には、家族連れが多く来ているが、土日しか動けないうえになかなかお金を落としてもらえないため、都会の OL やシニアといった平日でも動け、お金を使うのに抵抗がないターゲット層にもアプローチしていった方がいいのではないか。

○ 今後の取組と平成 31年度への方向性について

核となる観光拠点の形成については、ヤ・シイパーク周辺地域の活性化においては、H30 年度中にグランドデザイン(全体整備計画)を策定し、H31 年度にそれを元にした事業を展開することとしており、ヤ・シイパークを核とした観光拠点整備を推進する。

人材の育成に関しては、継続した勉強会や外部研修を実施することや、様々な関係機関等とパイプをつくり活躍の場を増やすことで会員のスキルアップを図り、案内可能人数を増やしていく。また、引き続き県観光ガイド連絡協議会の HP 等を活用した情報発信に取り組む。

広域観光の推進としては、高知龍馬空港を活用した観光 PR や高速道路 SA でのパンフレット配架等、県内の出入り口での情報発信を強化するとともに、レンタカー会社でのパンフレットの配架や従業員に対する市内モニターツアー実施など連携強化を図り、レンタカー利用者が市内に行く動機付けができるように取り組む。また、県内で唯一保有しているタンデム自転車を活用したサイクリングイベントなどを実施していく。

国際観光の推進に関しては、今年度実施している外国人観光客受入研修での内容をもとに、各施設の課題解決に向けた取り組みを推進するとともに、本研修を通じて得たスキルやノウハウを活用した接客や情報発信に取り組む。

上記の取組を実施することで、入込客数の上乘せを図り数値目標の達成を目指す。

【主な意見】

①核となる観光拠点の形成

- ◆ ヤ・シイパークならではの突き抜けた幸福体験事業を展開し、ファミリー層以外も訪れるように取り組んではどうか。

②広域観光の推進

- ◆ 名古屋アンテナショップなど県の出先機関をもっと活用し情報発信すべきではないか。
- ◆ 香南市 PR 隊のような人材を市内主要観光施設に配置して、直接観光客に魅力を伝えてはどうか。
- ◆ HP で観光モデルコース表示やインターネット(Google)での情報発信を工夫すべき。

③国際観光の推進

- ◆ 大日寺、国分寺をつないだプチ遍路体験を実施してはどうか。
- ◆ インバウンド向けのモデルコースの作成
- ◆ 外国人観光客への対応として、翻訳アプリの使用は失礼ではなく、円滑な対応ができるので非常に役立つ。

部会開催日:H30. 10. 30(火)

平成 30 年度 第2回香南市産業振興計画 サイクリング専門委員会報告書

(H30 年度上半期の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎ 山地 善久	香南サイクル	欠
2	○ 榮枝 俊一	香南市サイクリングターミナル	出
3	池田 敏夫	株式会社 技研製作所	出
4	山根 大輔	高知シクロクロス事務局	出
5	内村 幸子	創造広場 アクトランド	出
6	弘瀬 沙也香	香南市観光協会	出
7	齊藤 弓子	高知県計画推進課	欠

	氏名	所属	出欠
1	猪原 加江	商工水産課	出
2	田淵 浩平	商工水産課	出
3	齊藤 光明	商工水産課	出
4	小林 辰徳	商工水産課	出

○取組に対する評価【総評】

観光部会目標値(レンタサイクルの利用者数)は2,100人であり、H30.9月末の実績値は1,158人であった。

レンタサイクル利用者は、過去3年(10月から翌3月まで)の平均値から、H31.3月末で2,021人が見込まれる。目標値の2,100人に近い数字になる見込みだが、これからサイクリングに不向きな季節となることから、目標を達成できるようにイベントや広報などで周知を行い、取組を強化する必要がある。

タンデム自転車の公道解禁等、新たな自転車の活用場面が増えてきているので、周知方法やPRに注力し、利用者増加の対策をとる必要がある。

また、取組や課題を可視化し、PDCAサイクルを実施することで、観光部会とリンクしている数値目標とは別に、サイクリング専門委員会としての目標を掲げ、目指す形を確立させていく必要がある。

【主な意見】

○自転車を活用した観光への取組について

◆ 自転車を活用した観光への取組の中で、食に関する取組が弱い。観光地に行くと地のものを食べたい。観光と食は密接に関係しているので、自転車を利用した食べ物を巡るツアーを企画してみてもいいのではないか。

- ◆ サイクルオアシスについて、同一コンビニ店が同時期に20箇所申請し、サイクルオアシスになっているが、香南市には対象店舗はない。順番もあるだろうが、市としてサイクリングを推進しているのだから、要望していくべきではないか。
- ◆ MAZE-CLEなどの活動団体が動き始めるなど、前向きな流れもあるが、サイクリングチームの所属人数を増やして活動していただきたい。

○ 今後の取組と平成31年度への方向性について

今後の取組について事務局からの説明をし、各委員から以下の意見・要望が出された。

(説明内容)

(1) 新たなサイクリング事業について (市説明内容)

- ◆ 他県ではあまり実施例のない「アドベンチャーライド」と称されるオフロードサイクルを事業展開することで顧客の誘致を図れるのではないかな。
- ◆ 香南市では、ヤ・シィパークで開催される「シクロクロス」の大会参加者が年々増加しており県外からの参加も多く、誘客が見込まれると考えている。
- ◆ 「シクロクロス」と「ロングライド」を融合させ、「シクロング」という新しいジャンルを創りあげ、全国初の大会を開催することにより、シクロクロス、シクロングのメッカ(聖地)＝香南市と認知していただける可能性はある。
- ◆ 空港も近く、シクロクロス愛好家が関西圏に多いことも好条件と言え、県外からの誘客が成功すれば、宿泊施設の需要も高まり、経済効果も期待できる。また、「アドベンチャーライド」愛好者は海外にも多く、宿泊施設の需要などは更に高まると思われる。

【主な意見】

- ◆ 「シクロング」という大会を行うなら「距離と規模」が大切。120 km程度の未舗装路があると満足してもらえるのではないかな。
- ◆ 事故発生時のサポートや対応が非常に重要であり、スタッフとなる人員が多く必要である。
- ◆ 参加費としても1万円～1万4000円くらい取ることも可能だが、その分満足してもらおう責任もある。
- ◆ 長距離のコースがあれば、短く距離を刻んだ大会を開催することもできる。
- ◆ ジャイアントストア(自転車メーカー)の方と話す機会があり、塩の道を走ったということ聞いた。安全面を考えると走るのは無理ではないかという話だった。
- ◆ 参加者は一定の事故等は自己責任であると考えているところもある。だからといってかまわないということではなく、対応できる体制作りが必要。
- ◆ シクロング開催に向けた検討会を立ち上げてみてはどうか。全国初開催は魅力的である。
- ◆ シクロクロスについて、10/29にホームページに掲載をしたところ、約200件のリアクションがあった。

- ◆ 参加者だけでなく、観戦者を増やし、楽しんでもらいたい。また、メディアに取り上げられることが少なく、あまり知名度も高まっていない。市のほうでマスメディアにアプローチをするなどのアクションは起こせないか。
- ◆ 宿毛市では、秋祭りのなかで自転車の大会を開催しようとしていた。開催には至らなかったが、同日に同じ場所で大会と観光イベントを開催すれば相乗効果が狙えるのではないか。
- ◆ 出店依頼をするのに、どれくらいの客数が見込めるのか、情報が必要。屋台を出せるスペースがどれほどあるのかということも考えないといけない。
- ◆ コースをずらすことはできるので、実験させてもらえたらありがたい。
- ◆ シクロクロスの大会を育てていくという試みも大切である。
- ◆ 宿泊施設にサイクルロッカーがあれば、出場者は安心して宿泊できる。
- ◆ 自転車は高価なものなので、施設外においておくのは不安。また室内に持ち込めたら、大会に向けたメンテナンスもできるので、非常に助かる。
- ◆ 大会の際、サイクリングターミナルの研修室をメンテナンスルームとして利用してもらうことも可能であると思う。
- ◆ 駅構内に向かう階段などにスロープがあれば、とても助かる。くろしお鉄道に相談できないか。大きなお金を使って整備するのではなく、ちょっとした気遣いでうれしくなる。

(2) 香南市に来てもらう、足を止めてもらう方法について

- ◆ 琵琶湖 1 周や淡路島 1 周などの各地域をぐるっと 1 周する目的を持つサイクリングコースが人気を集めている。
- ◆ 四国では四国 1 周をすることを目指す傾向が強い。四国 1 周ルートは沿岸部をとおり、香南市もそのルート内にあるが通り過ぎて、高知市を目指すサイクリストが多いと思われる。
- ◆ サイクルオアシスの充実やサイクリングターミナルのおもてなしサポーターの登録検討などしているが、サイクリストが香南市で足を止める、また、香南市を目指すようなおもてなしやサービスが出来ないだろうか。

【主な意見】

- ◆ 全国サイクリングターミナル協議会に加入すれば、冊子に掲載されるが、それがどれくらい人の目に入っているのか分からない。年間 6 万円の会費を払う必要があるので、確認してから決めたほうが良い。また、全国 70 箇所程度あったサイクリングターミナルがどんどん減少しており、現在は 15 箇所程度しか残っていない
- ◆ Google マップで検索して出てくるならいいのではないか。外国からの観光客は Google で行き先を決定すると聞いた。
- ◆ Google で検索した時に、写真が出てくるが、少ししか掲載されていない。
- ◆ こちらから載せる写真を決められるので、内装や自転車の並んでいる写真等を掲載していけば、どんな施設かなど、分かりやすくなり、利用しやすくなるのではないか。

(3)ブルーラインについて

- ◆ 高知県ではブルーラインの整備を進めており、今年度、県道の整備が終了予定である。
- ◆ 進捗状況としては、奥四万十の3コースを残すのみとなっている。来年度、高知県サイクリング推進コース『ぐるっと高知サイクリングコース』の中で、市町村道を通る、越知町、日高村、梶原町、いの町、大豊町、土佐清水市にブルーラインを整備し、県のサイクリングコースの整備が完了する予定である。
- ◆ 香南市でも、市が設定した6つのサイクリングコースに同様の規格のブルーラインを整備していく考えであったが県の整備しているブルーラインは、県道やコースの分岐部分に1本青い線があるという表示になっている。
- ◆ 予算の問題もあるかもしれないが、香南市としては、これだけでは分かりにくいのではないかという思いがある。県が整備しているブルーラインについて自由に意見を伺いたい。

【主な意見】

- ◆ これがブルーラインといわれなければ分からない。
- ◆ アクトランドの名前がブルーラインにあり、県の土木事務所から勝手に引いているといわれたが、県の事業であり、土木事務所と県の連携がうまく行ってなかったからであったが、人が見たら誤解をまねく引き方になっていると思うので、要望してほしい。
- ◆ 一般の人が見ても分からないと思う。一般の人はブルーラインが何か理解していないと思うので、推進をする必要がある。
- ◆ 香南市として、ラインの延長や、ピクトサインを入れるなどして分かりやすくしていくという意見を、県に要望してほしい。